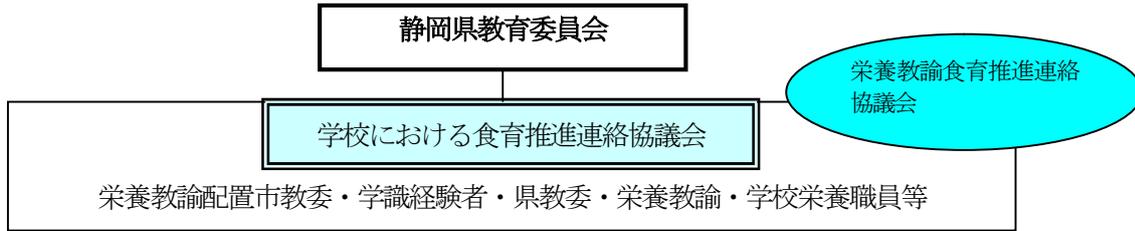


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	静岡県
推進地域名	静岡県全域

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1 栄養教諭を中核とした食に関する指導の普及啓発のための取組

1 食育推進連絡協議会の設置

- 趣旨
栄養教諭配置市町教委との連携を図りつつ、その成果を県内全域に普及するための連絡協議会を開催する。
- 内容
栄養教諭を中核とした食育の現状を踏まえ、静岡県としての学校における食育の推進の方向性及び栄養教諭の研修について協議する。
- 経過
第1回学校における食育推進連絡協議会 平成24年9月3日(月)
ア 本事業についての説明
イ 事業計画について
ウ 学校及び地域における食育の推進について
エ 意見交換・今後の計画について
第2回学校における食育推進連絡協議会 平成24年12月21日(金)
ア 「学校や地域における食育の推進について」
イ 意見交換
第3回学校における食育推進連絡協議会 平成25年2月19日(火)
ア 「学校や地域における食育の推進について」
イ 本事業の実施報告
ウ 意見交換

2 食育啓発リーフレットの作成・配布

- 趣旨
各学級担任が栄養教諭と連携し子どもの朝食摂取状況を指導できるリーフレットを作成・活用し、食生活の改善を図るとともに、実態を調査集計し、栄養教諭と連携した食育指導の成果を検証する。
- 対象
全公立小学校5年生及び中学校1年生（中学入学後に摂取率が低下する傾向にあることから、早期の啓発と意識向上を考慮した。）
- 調査時期
二期に分けて活用。1期を6～7月、2期を11～12月とし、担任及び栄養教諭等と連携した各学校における指導の成果を検証する。

3 学校や地域における食育の推進について

- ・現状の課題を明確にし、今後の取組について協議する。

テーマ2 栄養教諭の資質向上のための取組

栄養教諭食育推進連絡協議会の開催

(1) 趣 旨

授業研究及び他地域の食育の現状及び取組を知ることを通して、食育推進のリーダーとなる栄養教諭の資質向上を図る。

(2) 内 容

各栄養教諭の取組の情報交換及び代表栄養教諭による研究授業

(3) 実施日時・場所

日 時 平成24年11月26日(月)

場 所 長泉町立長泉中学校

テーマ1～2に共通する具体的計画

・「第1回学校における食育推進連絡協議会」において話し合われた食育の現状では、栄養教諭等が学校や地域の中心となって「食に関する指導の全体計画」や「食に関する授業案」等を作成していることがわかった。ただし、その後の活用や、教育課程への反映等については、まだ十分な見届けができていない。また、栄養教諭や学校栄養職員の未配置校を組織的にカバーできている地域もあれば、各々が食育に取り組んではいるものの、横の連携ができておらず、栄養教諭を中核とした取組が十分でない地域もある。

・子どもの朝食摂取状況を指導できるリーフレットを作成・活用し、食生活の改善を図るとともに、実態を調査集計し、栄養教諭等と連携した食育指導の成果を検証した。

調査結果から、朝食摂取状況については、小中学生ともに100%に近い数字を示しており、学級担任と栄養教諭等が連携した指導の成果が顕著に現れている。しかし、3色の栄養バランスについては、7割に満たない数字であることから、今後、静岡県版「食に関する指導の手引」や「食生活学習教材」を活用した栄養指導の充実などを図っていく必要がある。第1期と第2期を比較すると、栄養バランスのとれた食事を摂取した割合が増加している。第1期の結果を踏まえた指導が、各学校で実施された成果が表れている。

本事業における評価指標と考察

調査1：1週間（5日間）に何日朝ごはんを食べましたか。

(1) 小学校5年生

	1週間（5日間）に何日朝ごはんを食べましたか。						合計
	5日 食べた	4日 食べた	3日 食べた	2日 食べた	1日 食べた	1日も 食べていない	
第1期	32,915人	717人	229人	87人	43人	26人	34,017人
	96.8%	2.8%		0.4%		0.1%	
	朝食を食べる、ほぼ食べるグループ			朝食を食べない、ほぼ食べないグループ			
	99.5%			0.5%			
第2期	33,136人	788人	251人	106人	64人	48人	34,393人
	96.3%	3.0%		0.5%		0.1%	
	朝食を食べる、ほぼ食べるグループ			朝食を食べない、ほぼ食べないグループ			
	99.4%			0.6%			

※小数第2位を四捨五入するため、合計が100%にならない場合がある。

(2) 中学校1年生

	1週間（5日間）に何日朝ごはんを食べましたか。						合計
	5日 食べた	4日 食べた	3日 食べた	2日 食べた	1日 食べた	1日も 食べていない	
第1期	30,350人	1,070人	376人	201人	111人	101人	32,209人
	94.2%	4.5%		1.0%		0.3%	
	朝食を食べる、ほぼ食べるグループ			朝食を食べない、ほぼ食べないグループ			
	98.7%			1.3%			
第2期	29,494人	1,170人	450人	223人	141人	157人	31,635人
	93.2%	5.1%		1.2%		0.5%	
	朝食を食べる、ほぼ食べるグループ			朝食を食べない、ほぼ食べないグループ			
	98.4%			1.6%			

※小数第2位を四捨五入するため、合計が100%にならない場合がある。

【調査結果の考察1】

調査1：「1週間（5日間）に何日朝ごはんを食べましたか。」について

- 第2期調査では、1週間に3日以上朝食を摂った児童生徒を、「朝食を食べる、ほぼ食べるグループ」とすると、小学校5年生の朝食摂取率は99.4%、中学校1年生の朝食摂取率は98.4%であり、第1期調査に比べ、小中学生ともほんのわずかに減少した。しかし、県教育委員会が毎年実施している「授業のある日1日」が対象の朝食調査では、平成24年度の小学校5年生の朝食摂取率は98.8%、中学校1年生の朝食摂取率は97.7%であり、継続的な調査を実施することにより、児童生徒の朝食に対する意識の啓発を一層図ることができたと考えられる。
- 1週間に朝食を摂った日数が2日以下の児童生徒を、「朝食を食べない、ほぼ食べないグループ」とすると、小学校5年生で0.6%(218人)、中学校1年生で1.7%(521人)が、依然として朝食を摂らない傾向にある。

調査2：1週間（5日間）に3色の食品をすべて食べた日は何日ありましたか。

(注) <3色の食品> 赤…おもに体をつくるもとになる食品
 黄…おもにエネルギーのもとになる食品
 緑…おもに体の調子を整えるもとになる食品

(1) 小学校5年生

		1週間（5日間）に3色の食品をすべて食べた日は何日ありましたか。						
		5日 そろっていた	4日 そろっていた	3日 そろっていた	2日 そろっていた	1日 そろっていた	1日も そろっていない	合計
第1期		12,037人 35.4%	5,130人 29.1%	4,763人	4,177人	3,588人	4,321人 12.7%	34,016人
		朝食に3色の食品がそろっている、ほぼそろっているグループ			朝食に3色の食品がそろっていない、ほぼそろっていないグループ			
		64.5%			35.5%			
第2期		13,729人 39.9%	5,610人 31.5%	5,239人	3,697人	2,897人	3,231人 9.4%	34,403人
		朝食に3色の食品がそろっている、ほぼそろっているグループ			朝食に3色の食品がそろっていない、ほぼそろっていないグループ			
		71.4%			28.6%			

(2) 中学校1年生

		1週間（5日間）に3色の食品をすべて食べた日は何日ありましたか。						
		5日 そろっていた	4日 そろっていた	3日 そろっていた	2日 そろっていた	1日 そろっていた	1日も そろっていない	合計
第1期		11,348人 35.2%	5,069人 31.0%	4,925人	3,844人	3,233人	3,779人 11.7%	32,198人
		朝食に3色の食品がそろっている、ほぼそろっているグループ			朝食に3色の食品がそろっていない、ほぼそろっていないグループ			
		66.3%			33.7%			
第2期		12,499人 39.1%	5,063人 30.4%	4,674人	3,471人	2,842人	3,449人 10.8%	31,998人
		朝食に3色の食品がそろっている、ほぼそろっているグループ			朝食に3色の食品がそろっていない、ほぼそろっていないグループ			
		69.5%			30.5%			

※小数第2位を四捨五入するため、合計が100%にならない場合があります。

【調査結果の考察2】

調査2：「3色の食品をすべて食べた日は何日ありましたか。」について

- 毎日3色の食品がそろった朝食を摂っている児童生徒は、第1期調査に比べ、第2期調査では小学校5年生で4.5ポイント増加して39.9%となり、同じく中学校1年生では3.9ポイント増加の39.1%であった。
- 3日以上3色の食品がそろった朝食を摂っている児童生徒を、「朝食に3色の食品がそろっている、ほぼそろっているグループ」とすると、第1期調査に比べ、第2期調査では小学校5年生は6.9ポイント増加して71.4%、同じく中学校1年生は3.2ポイント増加して69.5%であった。
- 小中学校ともに学級担任等による継続的な指導の効果が表れており、特に小学校5年生の成果が顕著であった。今後も栄養教諭等と連携し、家庭科等の教科学習や学校給食を教材として活用しながら、栄養バランスのとれた朝食内容について計画的・継続的に指導を進めていただきたい。

本事業の成果

- 食育啓発リーフレットを活用することを通して、朝食摂取率は100%に近い数字を示しており、栄養バランスの取れた食事についても、第2期の摂取率が伸びていることから、学級担任と栄養教諭等が連携した指導の成果が現れている。
- 1年間の栄養教諭を中心とした各地域及び各学校における食育の現状についての情報交換ができ、今年度の振り返りと、来年度への取組のヒントが得られた。
- 栄養教諭だけの授業研修は普段できないものであり、大変有意義であった。また、KJ法を取り入れることで、事後研修の方法を学ぶことができた。
- 昨年度は、2年目栄養教諭を対象にしたが、本年度は、栄養教諭からの強い要望があり、2年目以上の栄養教諭を対象に実施した。栄養教諭は一人職であるとともに、地域に一人しかいない場合もあり、自分の取組について、的確なアドバイスを受ける機会は、ごくわずかである。また、他地域の取組を知る機会も限られており、今年は、対象を広げたことでより内容の濃い情報交換ができた。また、授業研究では、一般の教員と研修することはあるが、栄養教諭だけで実施することはない。研修生からは、同じ温度で授業を見ることができ、事後研を含めて、大変参考になったという声が、アンケート結果から多くうかがえた。



今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- 食育啓発リーフレットを活用した食に関する指導の例示をしていくなど、今後、多くの学校で計画的に継続した取組ができるようにする必要がある。調査の時には意識も高いが、これを年間を通して常に意識を高めていく必要がある。そのためには、栄養教諭を中心に、担任や家庭への啓発を積極的に行わなければならない。
- 栄養教諭の資質向上を図るため、栄養教諭対象の充実した研修を開催していく必要がある。